

とちぎ 米麦改良

令和6年5月
第132号

(公社)栃木県米麦改良協会
宇都宮市平出工業団地9番地25
☎(028)616-8700



これからの種子生産について

栃木県農政部生産振興課長 後藤 知昭

公益社団法人栃木県米麦改良協会並びに会員の皆様には、日頃から本県農政の推進につきまして、特段の御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本県の農業は、大消費地である首都圏に位置する立地条件、農業者の高い技術力などの強みを生かし、土地利用型作物の規模拡大や、施設園芸の高度化、露地野菜の生産拡大など、収益性の高い農業を展開し、着実に成長して参りました。

しかしながら、農業を取り巻く情勢は、少子高齢化に伴う担い手の減少、不安定な国際情勢による食料や農業資材等の価格高騰、気象災害の頻発化など大きく変化しており、国ではこれらの情勢変化を踏まえ、食料の安定供給に対するリスクの高まりに対応するため食料・農業・農村基本法の改正に向けた審議を進めているところです。

このような中、県では農業を成長産業として持続的に発展させていくため、耕地面積の8割を水田が占めるという強みを生かし、基幹作物である米を始め、国産需要が高まる麦・大豆等の生産拡大を図るなど、水田を活用した収益性の高い農業を展開していくことが重要であると考えております。

また、主食用米については、需要は回復傾向にあるものの、今後も人口減少・高齢化の進行などによる消費量の減少が見込まれることから、県においては、「栃木の需要に応じた米

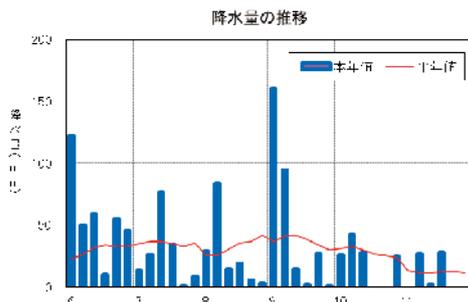
づくり推進方針」に基づき、需要が見込まれるマーケットに的確に対応した米づくりや国産需要が高まる麦・大豆などへの作付転換を進め、水田を活用した収益性の高い農業を推進しています。

こうした取組を着実に進めるためには、種子の安定供給を図ることが重要であり、令和2年4月に施行した「栃木県奨励品種の優良な種苗の安定供給に関する条例」に基づき、関係者の皆様とともに、農業生産の根幹となる優良な種苗の確保に努めているところです。

こうした中、種子生産の現場においても、採種農家の減少や高齢化の進行、種子センターの老朽化など多くの課題に直面しており、需要が増加している水稻「とちぎの星」や小麦「ゆめかおり」を始めとした種子の増産及び供給体制の構築が求められております。県としましては、種子供給不足が見込まれる品目・品種の種子の確保に取り組むとともに、また、需要の増加が見込まれる麦・大豆種子の生産について、新たに種子生産に取り組む生産者の確保・育成に取り組んで参ります。

今後も、需要の変化に的確に対応しながら、優良種子の安定生産を担う貴協会並びに会員の皆様と連携して、種子の安定した生産・供給体制強化の支援をして参りますので、皆様のより一層の御理解と御協力をいただきますよう、よろしく御礼申し上げます。

月は75%、8月は78%と少雨でしたが、9月は上旬に大雨があり134%、10月は70%、11月は79%でした。



○日照

月別の日照は、平年比で6月は111%、7月は113%、8月は86%、9月は109%、10月は102%、11月は109%でした。特に、8月下旬は日照が少なく、平年比で57%となりました。

2 令和6年産大豆の安定多収に向けたポイント～基本技術の励行と病害虫対策～

令和5年産大豆は、適期に播種され比較的良好な初期生育が確保されました。しかし、開花期前からの高温や過乾燥により、子実の肥大抑制や病害虫の発生が長期化しました。その結果、青立ち株による収穫の遅れ、小粒化による収量低下や外観品質の低下に繋がったと考えられます。

令和6年産では、「排水対策」や「適期播種」等の基本技術の励行に加え、病害虫発生予察情報の確認やほ場の見回り等で、病害虫対策を速やかに行えるよう、あらかじめ備えましょう。

1) 排水対策の徹底

①排水溝の設置

地表水の早期排除のため、ほ場周囲に排水溝(明渠)を掘りましょう。排水口は低く掘り下げて排水路につないでください。



ほ場周りの排水溝(明渠)

②心土破碎

プラソイラ等により浸透排水性を高めましょう。



プラソイラ

スタブルカルチ

2) 適期播種

播種適期は6月15日～7月5日です。

適期に比べ播種が早すぎると、①主茎が伸びて倒伏しやすくなり、②過繁茂により病害虫の発生が多くなり、③分枝数・莢数が多くなり過ぎ、株内の熟ムラにつながります。

遅すぎると①生育量不足で大幅に減収し、②時には早霜で成熟に至らない年もあります。特に麦跡の場合は遅れないようにしましょう。

3) 病害虫対策

病害虫被害は収量、品質低下の大きな要因です。病害は発生が懸念されるとき、害虫防除はその発生初期に実施することが基本です。県の発生予察情報やほ場観察により、適期を逃さず適切な防除を実施しましょう。

4) 適期収穫

令和5年産では、収穫期の降雨によりしわ粒が発生しました。収穫が早すぎると茎汁等による汚損粒や破碎粒が発生しやすくなり、遅れると自然裂莢による収穫ロスや割れ粒・亀甲(かぶと)じわ粒が多くなります。

適期を逃さず収穫することで、降雨による被害に遭うリスクを可能な限り減らしてください。

なお、汚損粒発生防止のため茎水分40%以下、破碎粒発生防止のため子実水分18%以下になってから収穫しましょう。

茎水分の目安
70%：緑色が残る
60%：莢と同じ褐色
40%：ほとんどの茎が黒変開始し、剥皮率が30%程度 手で折ると経くポキと折れる

子実水分の目安
20%：噛むと音がせずに割れる
18%：爪を立てると少し跡が残る
15%：噛むとパリッと割れる

○大豆作付け拡大について

国産大豆の需要は堅調であり、国の助成事業等も充実しています。また、栃木県では需要に対して供給が足りない状況です。大豆生産拡大に御協力をお願いします。

令和5年産水稻種子生産実績及び 令和6年産水稻種子生産計画

1. 令和5年産水稻種子の生産実績

春先から秋にかけて気温が高い状態が続きましたが、概ね順調な生育となりました。特に登熟期間が高温多少で経過したことから登熟歩合・千粒重が増加したことで多収となったことから、数量については、全ての品種で契約対比100%と必要種子量を確保することができました。

種子生産者並びに関係機関の皆様へこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

2. 令和6年産水稻種子の生産計画

令和5年12月8日に開催した令和6年産稲種子生産は場設置計画会議において、表2のとおり生産計画が承認されました。

稲種子の需要状況を及び在庫状況を踏まえ、コシヒカリ、なすひかり及び飼料用米多収品種は前年計画より減産、とちぎの星及びあさひの夢は前年計画より増産としました。

令和5年産稲種子生産実績数量

品種名	J A 名	面積 (ha)	契約 (t)	実績 (t)	対比 (%)	合格 消毒 (t)	合格 未消毒 (t)	準 消毒 (t)	準 未消毒 (t)	※売上金額 税別 (百万円)
コシヒカリ	なすの	156	623	623	100	290	333	0	0	214
	なす南	66	265	265	100	210	54	0	0	91
	小計	222	888	888	100	500	388	0	0	305
あさひの夢	しもつけ	33	146	146	100	41	105	0	0	50
なすひかり	しおのや	11	43	43	100	0	43	0	0	15
とちぎの星	しもつけ	32	140	177	126	70	107	0	0	61
	はが野	32	140	207	148	64	143	0	0	71
	小計	64	280	383	137	133	250	0	0	132
夢ささら	なすの	0.3	1.2	1.2	100	0.0	1.2	0	0	0.4
水稻うるち計		330	1,358	1,462	108	674	787	0	0	502
きぬはなもち	しもつけ	4	14	14	100	0	14	0	0	5
水稻もち計		4	14	14	100	0	14	0	0	5

(飼料用米多収品種)

品種名	J A 名	面積 (ha)	契約 (t)	実績 (t)	対比 (%)	合格 消毒 (t)	合格 未消毒 (t)	準 消毒 (t)	準 未消毒 (t)	※売上金額 税別 (百万円)
夢あおば	しもつけ	66	372	417	112	0	417	0	0	109
月の光	なすの	34	150	210	140	0	210	0	0	60
飼料用米多収品種計		100	522	627	120	0	627	0	0	169

※売上金額:生産実績数量に種子生産者価格を乗じた。

(有機栽培種子)

品種名	法人名	面積 (ha)	契約 (t)	実績 (t)	対比 (%)	合格 未消毒 (t)	備考
コシヒカリ	民間稲作	1.0	1.3	1.7	129	1.7	NPO法人(上三川町)

令和6年産稲種子生産計画

ア、品種別

種類	品種名	令和6年産稲種子生産計画			令和5年産稲種子生産計画			R6面積/R5面積(%)
		面積(ha)	反収	数量(t)	面積(ha)	反収	数量(t)	
水稲	コシヒカリ	208	400	832	222	400	888	94
	あさひの夢	47	440	205	33	440	146	141
	なすひかり	10	400	41	11	400	43	95
	とちぎの星	99	440	435	64	440	280	156
	夢ささら	0	400	1	0	400	1	100
	きぬはなもち	4	360	14	4	360	14	100
	計	368		1,528	334		1,372	110

種類	品種名	令和6年産稲種子生産計画			令和5年産稲種子生産計画			R6面積/R5面積(%)
		面積(ha)	反収	数量(t)	面積(ha)	反収	数量(t)	
多飼収料品用種米	夢あおぼ	0	560	0	66	560	372	0
	月の光	18	440	77	34	440	150	53
	計	18		77	100		522	18

イ、種子場別

種類	JA名	品種名	種子生産ほ場面積(ha)		令和6年産 種子生産 反収	令和6年産 種子生産 数量(t)	摘要	
			令和6年産					令和5年産
			前年対比(%)					
水稲	なすの(黒羽)	コシヒカリ	147	95	156	400	590	段階減産
		夢ささら	0	100	0	400	1	
		計	147	87	156		591	
	なす南	コシヒカリ	61	91	66	400	242	段階減産
		あさひの夢	47	141	33	440	205	
	しもつけ	とちぎの星	67	211	32	440	295	
		きぬはなもち	4	100	4	360	14	
		計	118	87	69		514	
	はが野	とちぎの星	32	100	32	440	140	
	しおのや	なすひかり	10	95	11	400	41	
計		368	110	334		1,528		

種類	JA名	品種名	種子生産ほ場面積(ha)		令和6年産 種子生産 反収	令和6年産 種子生産 数量(t)	摘要	
			令和6年産					令和5年産
			前年対比(%)					
多飼収料品用種米	しもつけ	夢あおぼ	0	0	66	0	0	
	なすの(塩那)	月の光	18	53	34	440	77	
	計		18	18	100		77	

(有機栽培種子)

種類	品種名	令和6年産稲種子生産計画			令和5年産稲種子生産計画			摘要
		面積(ha)	反収	数量(t)	面積(ha)	反収	数量(t)	
水稲	コシヒカリ	1	130	2	1	130	2	民間稲作 研究所

令和5年産大豆種子生産実績及び 令和6年産大豆種子生産計画

1. 令和5年産大豆種子の生産実績

6月の降水量が平年を上回ったことから、一部ほ場では播種作業がやや遅れましたが、茎立ちは概ね良好でした。

一方、8月以降は高温で推移したことから、粒の肥大の抑制による減収が想定されたため、準種子及び転用種子の確保を図りました。

なお、最終的な生産実績は契約対比約93%となりました。厳しい作柄状況の中、種子の確保に努めていただいた種子生産者並びに関係機関の皆様へこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

2. 令和6年産大豆種子の生産計画

各種苗事業者（種子場JA）との協議の結果、表2のとおり生産計画が承認されました。大豆は健康志向の高まりから国内の需要が堅調に伸びており、作付面積も増加しております。それに伴い種子需要も増えていることから、生産計画数量を前年対比約103%としました。

令和5年産大豆(里のほほえみ)種子生産実績

JA名	面積 (ha)	契約 (t)	実績 (t)	対比 (%)	合格 (t)	準A (t)	準B (t)	※1 売上金額 税別 (百万円)
なすの (大田原)	13	23	25	98	5 19%	18 70%	3 11%	14
なすの (黒磯)	9	16	20	128	0 0%	20 100%	0 0%	11
なすの (黒羽)	6	11	5	50	3 53%	1 26%	1 22%	3
なすの 計	27	49	48	97	8 16%	39 81%	4 8%	28
なす南	10	18	15	84	3 17%	9 62%	3 21%	8
合 計	38	68	63	93	10 16%	48 77%	7 11%	36

※1 売上金額：生産実績数量に種子生産者価格を乗じた。

※2 上表の数量の他に転用種子 21t（令和5年産）を確保した。

令和6年産大豆種子生産計画

ア. 品種別

品種名	令和6年産種子生産計画			令和5年産種子生産計画			摘 要
	面積(ha)	反収(kg/10a)	数量(t)	面積(ha)	反収(kg/10a)	数量(t)	
里のほほえみ	39	180	70	38	180	68	
合 計	39		70	38		68	

イ. 種子場別

JA名	品種名	種子生産ほ面積(ha)			反収(kg/10a)	生産数量(t)	摘 要
		令和6年産	令和5年産	前年対比(%)			
なすの(大田原)	里のほほえみ	12	13	91	180	21	
なすの(黒磯)	里のほほえみ	9	9	106	180	17	
なすの(黒羽)	里のほほえみ	6	6	97	180	10	
	計	27	27	97		48	
なす南	里のほほえみ	12	10	120	180	22	
合 計		39	38	103		70	

令和6年度事業計画

公益社団法人 栃木県米麦改良協会

I. 事業方針

主食用米や飼料用米多収品種の需給状況、種子生産者の経営実態（肥料・農薬等の高騰、国の交付金制度等）を十分に踏まえ、主要農作物優良種子の安定生産及び安定供給の確保を図るとともに、種子生産者の経営安定に努めます。

また、優良種子生産技術の伝承懸念、施設の老朽化等を踏まえ、県内種子産地が将来にわたって維持・発展していくための課題の整理、具体的対応策の検討を進めます。

II. 実施事業

1. 優良種子の安定生産と供給

主要農作物生産の基礎となる優良種子の安定生産と供給を図るため、計画的な種子生産や生産指導と品質向上、種子の供給、品質管理、種子生産体制の強化、などを実施します。

(1) 種子生産計画

事前予約された需要数量を基本に、流通動向、新品種の振興計画、備蓄数量などを勘案して県・関係機関と協議の上、「種子生産計画」を策定し、種子の生産にあたります。

※令和6年産種子生産計画：別表1

〈主な事業〉

- ・種子生産計画の策定
- ・作付品種の許諾契約締結
- ・種子生産者と採種ほ場面積の確保
- ・他県との連携による種子生産の受委託

(2) 飼料用米多収品種の種子確保

飼料用米多収品種需要動向を把握し、過不足のない適正規模の生産確保に努めます。

〈主な事業〉

- ・関係機関との連携による種子生産の指導
- ・品質向上対策の実施（品種切替圃場への漏生対策支援等）
- ・7年産種子の需要に応じた生産計画の策定

(3) 生育状況の確認

ほ場確認等へ参加し、種子生産ほ場での生育状況を確認し必要な対策を助言指導するとともに生産見込数量の的確な把握に努める。

〈主な事業〉

- ・ほ場確認会、生産物確認会
- ・下見指導会、農産物検査の立会・確認

(4) 混種事故防止

あらゆる機会、方法を通じコンタミ事故を絶対に起こさないための指導徹底に取り組みます。

〈主な事業〉

- ・種子GAPの実践促進や異品種混入防止チェックシートの配付
- ・種子生産者の1品種作付け推進
- ・原種消毒および原種専用ネット使用の指導
- ・収穫等機械の共同利用の促進

(5) 種子品質の確認・管理

種子検査見本品の作製・配付や調製程度確認会を開催するとともに産地における発芽試験結果の確認、備蓄種子の発芽試験等を行います。

また、稲種子のDNA分析を実施して混種事故を未然防止します。

〈主な事業〉

- ・種子検査 見本品の作製・配付と調製程度確認会の開催・稲種子DNA分析・調査の

別表1 令和6(2024)年産主要農作物種子生産計画

種類	品種名	計画面積 (ha)	計画数量(A) (t)	5年産生産計画 数量(B) (t)	前年産比 (A)/(B)	売上見込額 (税別・百万円)	注1
主食米	コシヒカリ	208	832	888	94%	293	
	あさひの夢	47	205	146	141%	72	
	なすひかり	10	41	43	95%	14	
	とちぎの星	99	435	280	156%	153	
	夢ささら	0	1	1	100%	0	
	きぬはなもち	4	14	14	100%	5	
	小計	368	1,529	1,372	111%	538	
飼料米	夢あおば	0	0	372	0%	0	
	月の光	18	77	150	51%	28	
	小計	18	77	522	15%	28	
稲 計		386	1,606	1,894	85%	567	
六条大麦	シュンライ	50	117	110	106%	34	注2
二条大麦	ニューサチホールデン	213	692	692	100%	189	
	とちのいぶき	5	18	18	100%	5	
	小計	218	710	710	100%	194	
小麦	さとのそら	15	55	55	100%	15	
	イワイノダイチ	11	35	35	100%	10	
	タマイズミ	17	55	51	106%	15	
	ゆめかおり	11	27	29	92%	10	
	小計	53	171	170	101%	51	
麦類 計		321	999	991	101%	279	
大豆	里のほほえみ	-	-	68	-	-	注3
合 計		706	2,604	2,952	88%	845	

注1) 売上金額は、生産計画数量に種子生産者価格を乗じた。

注2) シュンライは、上記の外数として8tを県外に生産委託し、令和6年産で125tを確保します。

注3) 大豆種子の生産数量は4月以降に決定します。

有機水稻	コシヒカリ	1.3	1.7	1.7	100%	-
------	-------	-----	-----	-----	------	---

実施

- ・ 備蓄種子の発芽試験の実施

(6) 受検対策

受検対策会議を開催し、事前指導事項の徹底を図り、栃木米品質の高位平準化と円滑な受検の実施を図ります。

- ・ 米受検対策会議の開催
- ・ 受検指導資料の作成配付

(7) 種子の需給調整

需要に応じた優良種子の安定供給を図るため、関係機関・団体とともに種子の需要動向を把握し「種子需給計画」を策定するとともに、不測の事態等に備え計画的に種子の備蓄(低温保管)を行います。

〈主な事業〉

- ・ 種子需給計画の策定
- ・ 計画的な種子の備蓄（回転備蓄）
- ・ 種子消毒の実施（備蓄種子の消毒含む）
- ・ 残量処理の実施（発生に応じた処理と需要生産者の費用負担）
※残量処理財源は、稲・麦類・大豆の種子販売価格に10円/kgを加算します。
- ・ 事故処理の実施（発生に応じた処理と種子生産者の費用負担）
※事故処理に備えて、種子生産者から1円/kgを預かります。(事故がなければ返金)

(8) 種子生産技術の向上

各種研修会の開催、種子伝染性病害防除等への助成を行い、種子生産技術及び品質の向上を図ります。

〈主な事業〉

- ・ 種子品質向上研修会や種子生産研修会の開催、栽培講習会への参加
- ・ 種子伝染性病害防除、品種転換圃場の漏生対策（除草剤）への助成
- ・ GAPシートの配布

(9) 消費者・実需者から選ばれる主要農作物の生産（一般栽培）

主要農作物の品質向上に向け、栽培技術指導及び品質改善指導資料を作成し生産者に配付します。

また、安全・安心な高品質・良食味の農産物を生産するため、地域の生産者を対象に地方農業振興協議会が実施する各種講習会に助成します。

(10) 広報活動

協会情報紙「とちぎ 米麦改良」を発刊・配付するとともに当協会ホームページにて生産者や関心のある一般消費者向けに生産技術等各種情報を提供します。

2. 種子生産体制の強化

稲麦大豆の優良な種子が将来にわたって安定供給されるよう種子生産者や種子場JA、種子センター等の現状と課題を踏まえた種子生産体制強化に取り組みます。

〈検討事項〉

- ・ 優良種子生産体制&技術の次世代継承策（事例調査等）
- ・ 種子買い上げ価格のあり方
- ・ 種子センターの維持強化（計画的修繕と財源確保、職員の負担軽減）
- ・ 将来的な種子産地のあり方

Ⅲ. 令和6年度主な事業活動予定

別表2

種子生産研修会を開催しました

優良種子の生産と安定供給を図るための課題を共有し、生産技術の向上を図ることを目的に種子生産者研修会を毎年2月に開催しています。新型コロナウイルスの感染以降WEB開催や日帰りでの開催でしたが、本年は、2月15～16日、日光きぬ川ホテル三日月において4年ぶりに宿泊で開催し、各種子場生産者との意見交換や懇親を深めることができました。



◆分科会概要

今回は、稲・麦・大豆の3分科会に分かれて、それぞれの現状と課題や今後の対応等について議論し課題の共有と今後の対策等について論議を行いました。いずれの分科会においても高齢化、後継者の問題、技術の継承、施設の老朽化などの課題があげられました。今後5年先や10年先を見据えた取組が重要になってきます。

また、優良種子生産者の事例報告や新規種子生産者の取り組みについての報告もあり、将来に希望もありました。

◆部会表彰

優良種子の安定供給と品質向上を図るためには、種子生産の重要性を生産組織全体が認識し、採種技術の高位平準化と意識の高揚が重要になります。このため採種事業に積極的に取り組み、貢献された組織に対し優良種子生産部会として表彰しています。今年度は、次の3部会が受賞されました。



(稲種子の部)

「下野農業協同組合 採種部会」

飼料用米の新たな支援措置に対応するために多収品種「夢あおば」の生産に取り組みました。

(麦類種子の部)

「小山農業協同組合 小麦採種部会」

需要に応じた麦生産に寄与すべく、「イワイノダイチ」「タマイズミ」作付面積を大きく変更しましたが、合格種子で契約数量を確保しました。

(大豆種子の部)

「那須野農業協同組合 今泉大豆集団栽培組合」

「那須南農業協同組合 種子大豆生産部会」

国内産大豆の需給が高まっている中、4年産「里のほほえみ」の契約達成率130%以上を達成しました。

第29回臨時総会を開催しました

令和6年3月26日に第29回臨時総会を開催しました。令和6年度事業計画並びに収支予算、令和6年度会費並びに徴収方法の決定、令和6年度借入金最高限度額、令和6年度役員報酬額について協議され、すべて原案どおり承認されました。

大豆の種子が不足しています！

本県の大豆種子需要は、令和5年産が約72tと前年対比で2%の増となり、県産大豆種子の生産供給が追いつかない状況が続いています。

このため、令和5年産種子買取価格は前年対比12%、令和6年産で更に2%増額するとともに、準種子Bにおけるしわ粒の混入限度を全体40%まで緩和する等、大豆種子生産に取り組みやすい環境づくりに努めています。

大豆種子生産に取り組みやすい環境が整いつつある今こそ、大豆種子生産を農業経営の一環に取り込むことを検討されてはいかがでしょうか。

JA しもつけ採種部会

農事組合法人まがのしま

代表理事 佐山 修一 氏



現在の経営概況を教えてください

- ・年による変動はありますが、平均すると、米（53ha）、麦（35ha）、大豆（6ha）、ニラ（75a）の複合経営を行っています。米は新規需要米（米粉）20ha、種子生産19ha、主食用米14haに分散して経営の安定化を図っています。
ニラは園芸部門として取り入れ、現在は、周年出荷体制で取り組んでいます。
- ・正社員は10代から60代まで7名おり、それぞれの得意分野を生かした責任担当制としており、10代の職員は、ニラを担当して経営管理のノウハウを習得してもらい、20代の職員はドローンによる防除作業を、30代、40代の職員には大型機械のオペレーターや販売分野などといった具合です。
- ・3年前に乾燥棟を整備し、乾燥機も最新のものに更新しました。また、農産物検査機関の登録を取り、自前で検査を行うことにより、生産から販売までを一貫して管理できるようになりました。

種子生産を取り入れたきっかけと狙いは？

- ・現在の会社の前身となった営農組合を立ち上げ時に集まった仲間に種子生産をしていた方が3名程度おり、組合としても収益力のある種子生産に取り組もうということになり、現在に至っています。私も昔は個人で種子生産を行っていました。
- ・米麦経営で重要なことは、国の交付金制度を上手に活用すること、経営のリスク分散、そして人材育成と考えており、種子生産は手間はかかりますが安定した収入が得られるのが魅力で、今後とも経営に取り入れていきたいと考えています。

今後の種子生産について

- ・種子生産は地域農業を支える重要な取り組みであり、責任と信頼の下で行うものです。このようなことから、当社では、雑穂抜き&除草などを社員、パートを総動員した一斉作業で行っており、「効率性」と「正確性」が両立できるよう努めています。
- ・個人で種子生産を行っていた頃を思い起こすと、集団化により、大型機械やドローンの導入による効率化が図られ、大規模経営が可能となり、種子生産の継続性は大きく改善されたと実感しています。
- ・ただし大規模経営はいいことばかりではなく情勢変化によるリスクも大きくなります。令和9年度から5年間水張がされない農地が水田活用直接支払金の対象から除外されますが、当社でも現在対応を検討中です。なんとか乗り切って次の世代につなげていきたいと考えています。